



高橋余一の「生活絵巻」



24 田の畦塗りあぜ

稲作は四月の終わりがごろ、苗田作りから始まります。

畦を新たに作り直して、まず苗床を作ります。田の土を起こして塊をほぐし、水を入れて平らにならすしろかきをします。そしてもみをまきやすいように短冊形に仕切り、おしぎりわら(藁)や干し草を刻む道具で刻んだ肥料となるレンゲを踏み込みました。くわでなでて平らにし、さらに手でならし水を張り、もみをまきました。

苗が成長する間に本田の準備をしました。

(上の絵)

苗代田の畦塗り

四月の下旬ブッキリや備中で畦の荒切りをやり四本コ備中で、こねた泥を畦に貼る。子供達の仕事はその上へ肥びしゃくで水を打つことだった。そのあとを親父が先鋤で丁度左官屋のコテの要領で美しく仕上げる。